

# ブダペスト通信

盛田 常夫



2026年No.5（2月3日）

## 興味深い世論調査結果

### 1. ウクライナのEU加盟をめぐる世論調査

2025年4月に、ハンガリー政府はウクライナのEU加盟反対キャンペーンとして、「ウクライナのEU加盟に賛成か反対か」の国民コンサルテーションを実施した。国民コンサルテーションという国民投票まがいのアンケート調査は、Fidesz政権が支持者の基礎固めに使っている政策手段である。日本円にして何十億円もの費用をかけて全有権者に賛成か反対を問うアンケート調査用紙を郵送し、2カ月もの時間をかけて回答を待つというキャンペーンである。（「ブダペスト通信」2025年4月19日号に詳細）。頻繁に実施される「国民コンサルテーション」という名を借りたFideszの政治宣伝に辟易した有権者のほとんどは回答しない。郵送された用紙を開封しないで捨てる人も多い。積極的に回答するのはFideszの熱狂的支持者だが、その数も次第に減少している。「国民コンサルテーション」の回答数はFidesz支持の現状を知るための興味深いデータになっている。

昨年4月の国民コンサルテーションでは、ウクライナのEU加盟反対のキャンペーンを張って、有権者にアンケートの返送を求めた。返送期間は2か月である。短期間には十分な回答数を確保できないので、長期の時間をかけて、TV・ラジオ・インターネットで「投票」を呼び掛けていた。1か月かけても100万をやや超えた程度の回答しか回収できず、途中からインターネットでも回答できるようにした。「回答用紙が届いていないという苦情が多くきているので、ネットでも回答できるようにした」というのがその理由だが、誰でも簡単にネット回答ができるようになった。すでに回答を郵送した人でも簡単にネット回答できる。メールアドレスを変えれば、何度も回答できる仕組みである。Fideszの活動家を動員したキャンペーンによって、最終的に217万（回答数は227万）ほどの反対回答を得た。オルバン首相はハンガリーの95%人々がウクライナのEU加盟に反対していると主張し、「EUの首脳会議にハンガリー国民の民意を伝える」と意気込んだ。

Fideszは公金を使った「国民コンサルテーション」をFidesz支持者のつなぎ止めに利用し、支持率の現状を測るバロメーターとしても利用している。民意の汲取りを装って、Fidesz支持層を固めることを狙っている。二重三重の回答があっても、とにかく回答数を増やし、賛成数を増やすことを至上命令にしている。しかし、それでは正確な情報が得られない。だから、次第に国民コンサルテーションを繰り返すごとに、政治的キャンペーンの色を濃くしている。

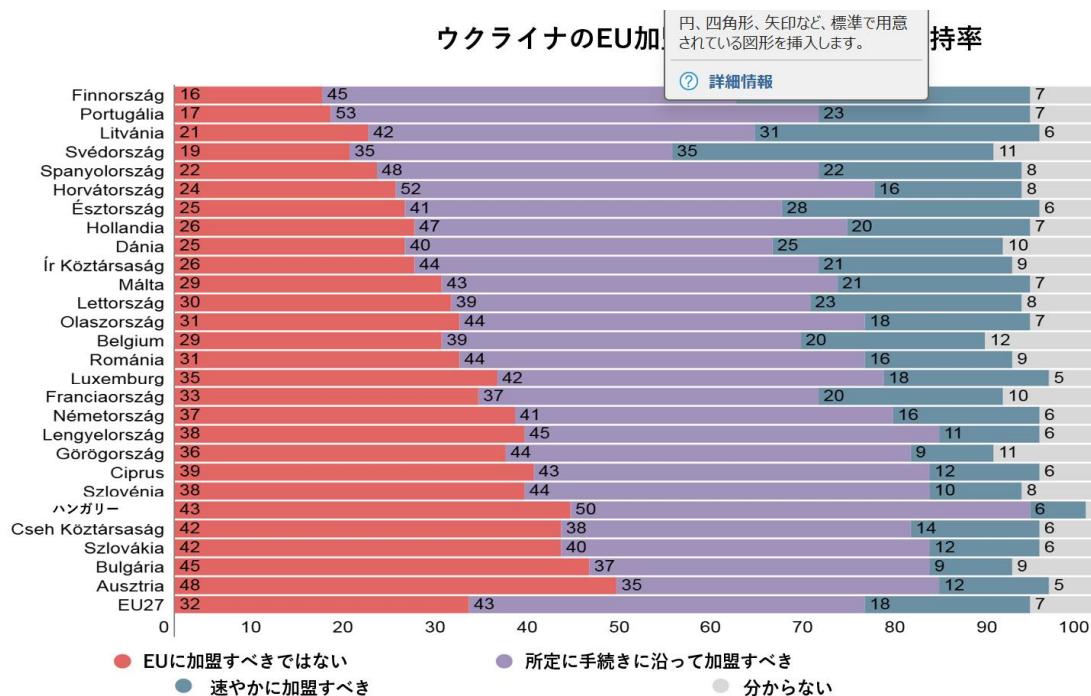
野党から見ても、国民コンサルテーションの回答数は、Fidesz支持率の現状を知る上で参考になる。このウクライナのEU加盟反対の国民コンサルテーションで、実際に賛成回答を返送した実数はどれほどだろうか。筆者の大雑把な概算では、二重三重回答を差し引いて、ほぼ160-170万程度だと推計される。そのなかでも、岩盤支持者は130-150万程度と推定される。これは回答返送開始から1か月過ぎた時点での回答数である。さらに、是が非でもFidesz政府を支持しなければならないと考える層は郵送された「投票用紙」をすぐに返送するはずだが、その数は100万に満たない。

非常に興味深いことに、この筆者の推定を裏付けるような世論調査結果が公にされた。

大規模規模な「国民コンサルテーション」から数カ月経った10月から12月にかけて、政府から補助金をもらっている研究センターSzázadvégが、政府委託にもとづき

国際世論調査を実施した。ところが、その結果は政府が主導した国民コンサルテーションとはまったく異なるものになっている（次ページのグラフ参照）。

この調査によれば、ハンガリーではウクライナの EU 加盟に反対する比率は 43% で、所定の手続きを踏んで加盟に賛成の比率は 50% と賛成者の方が多い。さらに、可及的速やかに加盟を認めるべきという 6% を含めると、加盟賛成数は反対数より 13 ポイントも多いことになる。何十億円もかけた「国民コンサルテーション」より、この世論調査の方がはるかに現実を反映している。



Századveg財団が実施した2025年10月8日から12月10日に実施されたヨーロッパ30か国、30000人のアンケート調査による（<https://szazadveg.hu/cikkek/az-europaiak-nem-tamogatjuk-ukrajna-gyorsitott-eu-csatlakozasat/>）

この図から分かるように、右派政権が誕生したチェコとスロヴァキア、親プーチン政権のハンガリーで反対の比率は高いが、それでも国民の過半はウクライナの EU 加盟を容認している。反対率が高いブルガリアとオーストリアでも、反対と賛成がほぼ拮抗している。オーストリアの場合は、2015 年に始まった難民・移民流入にたいする拒否反応が強く、ウクライナの EU 加盟によって、ウクライナからオーストリアに流入する移民を警戒する民意がある。同じ現象はドイツにも見られるはずだが、ドイツの場合は賛成数が反対数を 20 ポイント上回っている。

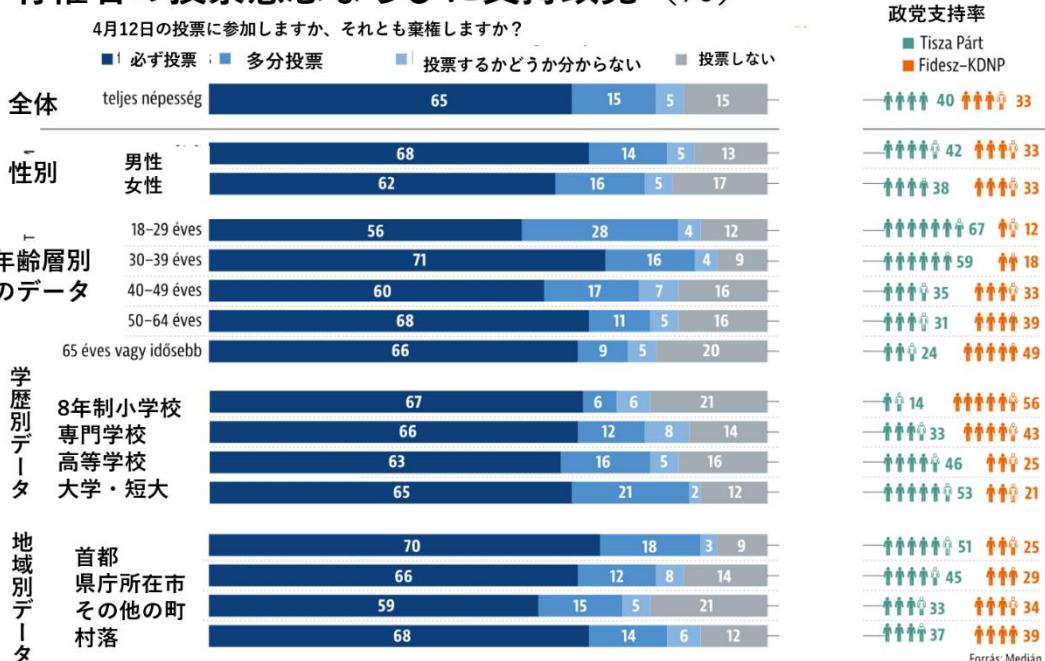
いずれにしても、政府が大金をかけて主導した春の「国民コンサルテーション」は、Fidesz 政権による一大キャンペーンに過ぎなかったことが分かる。

## 2. 与党 Fidesz と Tisza の支持状況

4月12日の総選挙を目指して、Fidesz と Tisza のキャンペーンが激しくなっている。政府の補助金で運営されている Nézőpont の世論調査では Fidesz が Tisza を常に 10 ポイントリードしていることになっているが、オルバンを含めた Fidesz 幹部は Tisza の支持率の方が高いと判断している。しかし、その差は統計誤差の範囲内にあるもので、「逆転可能」というのが現在の与党 Fidesz の現状認識である。

週刊経済紙 HVG によれば、2026年1月の Median 調査では Tisza が Fidesz を 7 ポイントリード（有権者全体の支持率）し、確実に投票に行くと回答した層では 12 ポイントもリードしているという調査結果を発表している（「ブダペスト通信 1月 16 日号」）。この調査結果に、オルバン初めとする Fidesz 幹部は驚愕し、Fidesz 支持者の票固めのための行動目標が設定されたと言われている。オルバン自身も、Fidesz の活動家がもう一段ギアを入れないと、選挙に負けると発破をかけ、Fidesz だけの閉じた集会（メディアを含め、外部の人間を入れず、参加者は事前登録）を頻繁に開き、内部の引き締めを図っている。政府系調査機関 Nézőpont の調査結果は政治的に利用するだけで、実際の行動決定は民間の調査に頼っている。

### 有権者の投票意思ならびに支持政党（%）



HVG は Median 調査にもとづき、データの詳細を発表している（前ページのグラフを参照、<https://hvg.hu/hetilap-print-cikk/20260505magyar2>）。

政治学者のケーリー・ラースローは、Tisza が全体で優勢を保ち、得票数で Fidesz を上回っても、必ずしも議席数で Fidesz を上回れるかどうかは分からないと分析している。ハンガリーは小選挙区制で地方の議席のウエイトが高い。だから、ブダペストや他の都市で Tisza が勝ったとしても、地方で議席が取れなければ、多数を制することはできないという。他方、オルバンは「ブダペストで議席を採れなければ、絶対多数の三分の二の議席を確保するのは難しい」と活動家に活を入れている。

Fidesz は青年民主連盟を意味する。最初に政権を取った 1998 年当時、30~40 歳代の若い政治家を擁する政党だった。そこから 30 年近い歳月が過ぎて、主要な指導者は 60 歳代になった。しかも、ここまで選挙で三分の二の議席を得て、Fidesz 一党だけですべてを決めるシステムを作ってきた結果、オルバンはいつの間にか、権力維持に執着する独裁者になってしまった。青年政治家率いる政党が「奢る平家」になってしまった。

現在の Fidesz の支持基盤は、65 歳を超える年金生活者である。「年金生活者党」とでも政党名を変える必要がある。青年層から見放され、昔からの支持者である年配者に依存しなければ、選挙に勝つのが難しくなった。

HVG は中央統計局のデータにもとづき、年代別地域別の有権者数を掲げており、これも選挙の勝敗を占う重要なデータになっている。どの年代の有権者、どの地域の有権者をどれだけ獲得できるかが、勝敗を決する。

年齢別地域別の有権者数（18歳以上、単位：万人）			
<b>有権者総数</b> 790万人		<b>学歴別有権者数</b>	
<b>性別</b>		8年制小学校	170
男	380	専門学校	170
女	410	高等学校	270
<b>年齢層別</b>		大学・短大	180
18-29歳	130	<b>居住地域</b>	
30-39歳	120	首都	140
40-49歳	160	県庁都市	160
50-64歳	190	その他の町	250
65歳以上	200	村落	230